

令和8年度九州大学大学院法学府
修士課程入学試験問題（春季）

民事訴訟法

以下の問いにすべて答えなさい。

問1

具体的訴訟事件において民事訴訟法上の信義則が発現する場面としてどのようなものが考えられるか。各場面における信義則適用の当否も踏まえて論じなさい。

問2

Yは子供がなくXを養子にしたが、Xは大学を卒業して就職後、Yとはほとんど音信不通の状態である。一方、Yの甥であるZは、Yの近所に住んでいてしばしばYのもとを訪れていろいろと手助けをしている。Yは、認知症により心神喪失の常況にあるとして成年後見開始の審判を受けたが、その1年前に、Yは公正証書による遺言を作成しており、その内容はY所有の土地建物の全部をZに遺贈するというものであった。

遺言の事実を知ったXは、生存中のYとZを被告として遺言無効確認を求める訴えを提起した。かかる遺言無効確認の訴えについて、確認の利益を認めることはできるか。確認の利益存否の判断基準に即して論じなさい。